

地域密着型特別養護老人ホーム

# 愛護苑

広報  
第11号

2017.4.20

印刷 あへ印刷株式会社

- 発行 社会福祉法人 愛護会 地域密着型特別養護老人ホーム 愛護苑
- 住所 〒023-0132 岩手県奥州市水沢区羽田町字水無沢491-3
- TEL 0197 (51) 6835 ● FAX 0197 (51) 6836
- E-mail aigoen@aigokai.jp ● URL http://aigokai.jp/
- 責任者 千葉信男 ● 編集 高橋護・阿部美由紀・菊地由奈・岡崎梓・及川裕子



## 人材確保と高齢化社会

日頃より、愛護苑の運営にご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

当苑の願いは、ご利用者様が、長寿で健やかな生活を送って頂くことと考えており、施設としては、寄り添った支援を行っていくことだと思っております。その為にも、介護員の確保が必要不可欠と考えております。

当苑も人材確保には頭を痛くしており、ハローワークや知人の紹介、派遣等考えながら確保に努めて参りましたが、中々厳しいのが現状です。しかし、このままではご利用者様にご迷惑をお掛けし、ご家族様にも不安を募らせることとなります。更には、既存の介護職員の業務負担も多くなり、疲労等によるリタイアの心配もありました。よって、この状況を打破する為、昨年より法人本部と相談しながら介護職員の待遇面の改善を進めて参りました。待遇改善をすることにより、既存職員の定着化、そして新戦力の確保が出来るのではないかと考えました。結果、平成二十九年度には新たな仲間が数名加わって頂けることになりました。もともとゆとりある支援を行う為にも、あと数名の人は確保したいと考えております。

今後も、介護施設が整備され、利用する方も増加されることを予測すると、介護を担う人は二〇二五年には全国で約三十八万人、岩手県でも約五千人が不足になると言われております。平均寿命は、男性八〇・七五歳、女性八六・九九歳と発表されましたが、一人ひとりが健康寿命(約七〇歳〜七十四歳)を一歳でも二歳でも延ばす努力をすることにより、その分、担う方が少なくてすむのではないかと考えます。

最後に、今後も利用者様の為に職員一丸となり支援して参りたいと考えておりますので、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜ります様宜しくお願ひ申し上げます。

施設長 千葉信男

## さくら



さくらユニットでは、季節を感じられる行事に皆さんで参加され楽しんでおりました。二月の節分行事では大きな声で「鬼は外！福は内！」と厄を払い、皆さんも笑顔で溢れていました。日中活動にも積極的に参加され、軽体操やちぎり絵作成を行っていただきます。手の運動も兼ね、作成しているちぎり絵はとも丁寧で作って頂き、毎月飾っております。ぜひ、さくらユニットに来た際にはご覧になって下さい。

## あざみ



あざみユニットでは、季節の行事に参加し皆さん笑顔で楽しんでいました。三月の行事ひな祭りでは女性入居者さんは化粧をされ、鏡で見せるとニコッと微笑んでいました。日中の活動では苑内を散歩したり、民謡を流し一緒に唄ったり、曲に合わせて踊ったり、時には入居者さん同士の会話で職員を笑わせてくれたりと、あざみユニットは楽しく、笑顔が多いユニットです。



## こすもす



こすもすユニットには洗濯物を畳まれたり干されたり、縫い物をされる入居者さんや、テレビや新聞をまめにチェックする入居者さんもおり、悠々自適且つマイペースな日常を過ごされておりますが、月ごとの行事にも積極的に参加されています。特にカラオケと被り物には目を輝かせられ、昔を懐かしがり涙を流される入居者さんや、子供のようによく好奇心を持たれる入居者もおります。笑顔と「ありがとう」の言葉を支えに、これからも元気で過ごして頂きたいと思っております。

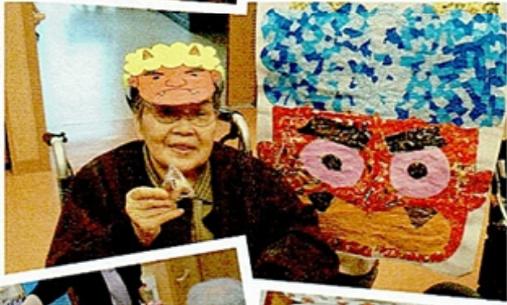
## いちよう



いちようユニットは、入居者さんがとても仲良しで、お話しをされたり、じゃんけんをして楽しませております。理事長と一緒に、手遊び歌を唄われ、楽しい時間を過ごされていきます。タオルを渡すと、裁縫の仕事を思い出し、いつまでも縫つマネをされております。



クリスマス会



節分



ひなまつり





# 黒田助獅子舞



## 医務だより+

「幻視が特徴のレビー小体型認知症を知っていますか？」

二〇一五年 全国で認知症と診断された人は、六十五歳以上で五二五〜五二五万人いました。内訳は、

- アルツハイマー型認知症…67・6%
- 脳血管性認知症…19・5%
- レビー小体型認知症…20・0%

と推測される。

七〇歳代の男性は、自分では実際無いと分かっている「ゴキブリやネズミが見える。妻を別人と間違っ等」の症状があり、物忘れや認知症を診断するクリニック受診では「軽度の認知症」と診断されるが、幻視が治らない特異的な症状に悩まされた。妻は「軽い認知症」とは思えないと疑い、インターネット上で専門医を知る。横浜市立大学の小坂憲治医師から「レビー小体型認知症」と診断された。

※小坂医師は「レビー小体型認知症」の発見者

専門医師が少なく誤診されるケースが多い。「幻視」は、アルツハイマー型や他の認知症に余り見られない症状です。「幻視」を強く否定せず、本人の話を良く聞き安心できる

ような言葉、声掛けが大切です。動作が遅く倒れやすい等のパーキンソン症状ともなう為、生活の環境を整える必要があるが、適切な薬で症状を遅らせることができる場合もある。

### 「レビー小体型認知症」のチェックリスト

- △五項目以上該当すれば可能性あり
- △あたまがすっきりしない時としている時の差が激しい
- △実際に無い物が見える
- △うつめである
- △妄想が見られる
- △小股で歩く
- △睡眠時に異常な行動が見られる
- △動作が緩慢になった
- △筋肉がこわばる
- △転倒や失神を繰り返す

読売新聞より抜粋

認知症を予防する大事な要素は、食生活、運動、生活習慣、頭を使う事。

認知症の原因を知り、予防対策を明日から行いましょう。



## 新職員紹介



介護職員 福土 翼



介護職員 佐々木ゆきえ



介護職員 伊藤 公子



介護職員 千葉 加奈子

## 編集後記

「広報 愛護苑 第十一号」皆様にお届けすることができました。本号が入居者様の「笑顔」とテーマに編集してみました。どうぞ、ご覧いただけますようお願い致します。

三月の発行予定でしたが、遅れました事をお詫びいたします。

(広報委員一同より)